

【単年度】災害時における自転車活用社会実験(静岡県浜松市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- ・ 災害時、道路啓開が十分ではない段階における道路通行可否情報の迅速な把握や被災者への適切な物資輸送を目的とした自転車の有効活用について検証する。
- ・ 災害時における自転車を活用した物資運搬等の有用性等が確認できれば、他都市での参考事例となること。

2. 実験内容、実験結果

【自転車を活用した支援物資の運搬、情報伝達の検証】



【災害時の自転車を活用した道路通行可否情報の収集】



3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
東名浜名湖 SA を防災拠点として位置づけて広域救援物資を船で運ぶという考えは興味深い。水上タクシーと自転車を機能的に連携してよい取組み。ただし、SA の棧橋が仮設であるので常設化して、浜名湖の景観にマッチするようなデザインにしてみたい。	・ 高速道路 SA の多面的活用として、本実験の成果を活かして、SA 防災利用の事例として提案していきたい。 ・ 現在の棧橋を占有・管理しているNPOや河川管理者にもそのことを伝えた。
ボランティアの受入れを一元化して、災害対策本部に活かしていくよう位置付けるべきである。	・ 受入れ態勢や調整機関、ハンドリングなど中間支援が重要であり、その構築も進めたい。
物資運搬や道路情報収集だけでなく、エリア内の被害調査を自転車でもやることも考えられる。	・ 自転車の効果的な活用の1つのでもあるので、研究してみたい。

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
自転車は物資運搬より、情報収集、伝達が適している。	- 在宅避難者への情報伝達や避難者ニーズの収集を中心にして、そのために物資と一緒に持って行き、避難者とのコミュニケーションを図るツールとして位置付ける。 - モデル地区等で防災訓練などを通して実践継続して知見を重ねていく。
サイクリストボランティアの受入体制	- 浜名湖サイクルツーリズム推進会議が中心となって受入れ態勢を構築する。 - 災害発生後に走る場合、悪路などにより自転車の修理が必要になることが想定されるので、shopとの連携態勢を構築する。

5. 今後のスケジュール

- 新型コロナウイルス感染症の収束を見据えて、モデル地区における試行、訓練を実施し、実験の成果を地域と共有する。
- 災害時に自転車のボランティアを受け入れる窓口や仕組みづくりに取り組む。
- 災害時自転車活用運営マニュアル(案)に基づき、地域住民が参加して継続検証を行い、マニュアル(案)の検証を重ね、精度を高める。
- 浜名湖の水上交通(舟運)を活用した東名浜名湖サービスエリアでの広域物資運搬について、別のモデル地区で検証を行う。

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ 社会実験で実施した災害時における自転車活用手順をマニュアル・手引き(案)のたたき台として、行政と自主防災組織が連携して各地域で研究・検討する。
- ・ 自転車を使った避難、避難所から在宅避難者への物資配給や情報伝達、見守りなどの訓練を地域防災訓練などで実践して、知見を積み重ねる。
- ・ 地震、津波を想定した実験であったが、様々な災害に対応した防災活動として、自転車の活用策を地域で話し合う。